

「奨学応募生のお話を聞く会」の報告

令和5年度の国内奨学生に応募して頂いた方の中から、奈良支部は安井医学奨学生として紙谷史夏さま（奈良県立医科大学大学院研究科 医学研究科 医科学課程3年生）を推薦しました。紙谷さまは、この間高いレベルの研究テーマに着実に取り組み、研究論文などの成果もあげておられますが、残念ながら受賞には至りませんでした。

奈良支部としては、さらなる研究の充実と進展を期待して、会員を中心にお話を聞く会を以下のように行いましたので、報告します。

日時と会場：2024（令和6）年3月10日（日）午後1時半～3時半

於 アクティ奈良

報告者：紙谷史夏さま（奈良県立医科大学 糖尿病内分泌内科診療助教 兼奈良県立医科大学 医学研究専攻医科学課程4年一社会人大学院生）

テーマ：「レセプトビッグデータを用いた糖尿病・内分泌内科疾患の疫学研究」

<紙谷史夏さまのプロフィール>

- * 経歴：2009年自治医科大学医学部医学科卒業 ⇒2011年奈良県立五條病院 へき地支援部
⇒五條市立大塔診療所 所長（一人医師）⇒香川県立中央病院 僻地医療支援センター
⇒2018年奈良県立医科大学附属病院 糖尿病学講座 入局
⇒同糖尿病・内分泌内科学講座に名称変更

以上のように、紙谷さま（以下紙谷さん）は医学部卒業後奈良県や香川県で約9年間の僻地医療に従事し、プライマリケア医としての経験を積まれました。そしてこれらの地域医療の実態の体験と理解を通して、改めて日本の国民病ともいわれる「糖尿病」の原因や症状に関するデータを広く収集・検討することで、その治療の充実に向けて研究を進めておられます。

- * 資格など：日本糖尿病学会糖尿病専門医をはじめ日本内分泌学会総合内科専門医、プライマリケア学会指導医などの資格を持ち、2023年には日本糖尿病学会、若手研究奨励賞などを受賞されています。

また、紙谷さんは現在二人のお子さまを育てながらのママさん医師、研究者として活動されており、指導教授からも「仕事、研究と家庭、育児のワークライフバランスを実践しており、大学において女性の Physician Scientist のロールモデルになっている。」として、紙谷さんに憧れて講座に参加する女性医師もいるなど高く評価されています。

<研究などのお話>

研究の方法として、下図に示すような項目を含む NDB (日本保険診療全数調査)、KDB(国民健康保険と後期高齢者医療保険を含む)のレセプトデータ情報を組み合わせて用い、統計法を駆使してビッグデータ (1 億、1000 万) の分析を行っているとのこと。紙谷さんは、所属する糖尿病・内分泌内科学講座での研究活動の成果として、糖尿病患者は非糖尿病患者に比して下肢の切断が 10~15 倍高いことを見出し、これは整形外科領域の教科書にも引用されています。

レセプトビッグデータを用いた 糖尿病・内分泌疾患の疫学研究

- ・ 年齢
- ・ 性別
- ・ 生年月日
- ・ 病名、病名開始日
- ・ 検査、検査日
- ・ 処方、処方日、処方日数
- ・ 注射薬剤名、投与量
- ・ 指導料、管理料

診療報酬明細書

Open access Original research

BMJ Open Incidence of lower limb amputation in people with and without diabetes: a nationwide 5-year cohort study in Japan

Fumika Kamitani,¹ Yuichi Nishioka,^{1,2} Tatsuya Noda,² Tomoya Myojin,² Shirohiko Kubo,² Tsunoyuki Higashino,² Sadanori Okada,¹ Yasuhiro Akai,^{1,4,5} Hisoshi Ishii,^{1,6} Yutaka Takahashi,¹ Tomoaki Imamura²

scientific reports

OPEN Antithyroid drug-induced leukopenia and G-CSF administration: a long-term cohort study

Fumika Kamitani,¹ Yuichi Nishioka^{1,2}, Miyuki Kaizumi,¹ Hiroaki Nakajima,¹ Yukihiro Kurematsu,¹ Keitaro Kanke,¹ Hiroki Shichi,¹ Shin Urai,¹ Masaki Suzuki,¹ Naoki Yamamoto,¹ Hisonori Bando,^{1,2} Genzo Iguchi,^{1,4} Hirotsuka Suto,^{1,4} Yohshi Funakoshi,^{2,4} Naomi Kiyota,^{2,4} Yutaka Takahashi,¹ and Wataru Ogawa¹

Combined Hypophysitis and Type 1 Diabetes Mellitus Related to Immune Checkpoint Inhibitors

Yasunori Fujita,^{1,4} Fumika Kamitani,^{2,4} Masaaki Yamamoto,¹ Hidenori Fukuoka,^{1,2} Yushi Hirota,¹ Nobuharu Nishiyama,² Naho Goda,² Yoko Okada,² Yuiko Inaba,² Hiroaki Nakajima,² Yukako Kurematsu,² Keitaro Kanke,² Hiroki Shichi,¹ Shin Urai,¹ Masaki Suzuki,¹ Naoki Yamamoto,¹ Hisonori Bando,^{1,2} Genzo Iguchi,^{1,4} Hirotsuka Suto,^{1,4} Yohshi Funakoshi,^{2,4} Naomi Kiyota,^{2,4} Yutaka Takahashi,¹ and Wataru Ogawa¹

◆ 大学院在学中の主な研究成果

2021 糖尿病患者の下肢切断研究

2022-23 抗甲状腺薬による無顆粒球症研究

2023 免疫チェックポイント阻害薬による 1 型糖尿病研究

Chapter 5
Endocrine Immune-Related Adverse Events in Immune Checkpoint Inhibitors

Fumika Kamitani*, MD
and Yutaka Takahashi, MD, PhD

紙谷さんがさらに研究を進めておられる「抗甲状腺薬による無顆粒球症研究」や、T 細胞の免疫機能を促進する「免疫チェックポイント阻害薬 (Immune Checkpoint Inhibitor=ICI) の効果」についての研究などについてもお話ししていただきました。お話の中では免疫系の賦活による免疫関連有害事象の中で内分泌系に係るものとして、甲状腺炎や 1 型糖尿病や自己免疫が原因の女性に多いバセドウ病などについて、身近な症状などについてもわかり易くお話いただきました。

<終わりに>

紙谷さんは、研究のことや同僚との研究活動、そして子育ても楽しんで行っていることなどについて、明るい笑顔でパワフルにお話してくださいました。参加者は少なかったのですが、質疑応答も活発に交歓されて、日常的に聞きなれた糖尿病についてのお話はとても興味深いものでした。紙谷さんは、今後も医師・女性研究者として診療活動を大切にして患者の QOL を改善できる研究を行い、後進の指導にもつなげたいと力強く語られ、一層のご活躍を期待して閉会としました。



(文責 奨学生委員会 平井タカネ)